

インターナショナル・プログラム・オフィス (IPO)

日越大学-Japan-Vietnam University (VJU)

日越大学 MBA インターンシップ通信 Vol.1

～日越大学の MBA 学生が、横浜市内の物流企業でインターンシップを行いました～

ベトナムと日本の両政府の協力により 2016 年 9 月にハノイに設立された日越大学の企業管理修士プログラムの学生が、2017 年から毎年、横浜国立大学の特別聴講学生としてインターンシップ・プログラムに取り組むために 4 か月を横浜の地で過ごしています。日本滞在期間中に本学経営学専攻の英語による授業や日本語の授業、修士論文の執筆準備のための研究指導を受ける一方、様々な企業や団体においてインターンシップ体験を行うことがこのプログラムの目的です。

今年のインターンシップ・プログラムでは、公益財団法人横浜企業経営支援財団 (IDEC) を通じてご紹介いただいた横浜の地元企業のご協力により、横浜港湾における物流の現場を 2 日に渡り見学させていただくこととなりました。



(日本国際輸送株式会社本社において撮影)

今回は、日本国際輸送株式会社様のご厚意により、社員の皆さんからレクチャーと実際の港湾物流施設の見学についてご協力をいただきました。

1日目の午前中は、輸出入に伴う国際物流の流れに関するレクチャーが本社の一室にて行われました。笠原社長もご挨拶に見えてくださり、日本で学ぶことを学んでいってくださいいとお言葉を頂き、学生たちも緊張した面持ちでお話に聞き入っていました。次いで、現場を担当する社員の方々から、横浜港における港湾物流の詳細や日本の輸出入・港湾関連情報処理システム（NACCS）、通関業務に関する様々な説明が行われました。すでに国際物流における就業経験を持つ学生たちもおり、皆さん真剣に聞き入り、説明を書き取っていました。

午後は山下公園から遊覧船に乗船し、海の上からの横浜港見学が行われました。日本国際輸送株式会社の社員の方々も港湾設備について詳しい説明をしてくださり、学生たちも興味深く聞いていました。特に横浜の港では車両を輸出する船が多く、学生たちが船に車が積み込まれる様子を携帯電話で撮影していました。横浜の普段とは違う風景に、日越大学の学生たちも強く興味を持ったようです。



(山下公園から遊覧船に乗船し、横浜の港を海上から見学しました)

2日目は、横浜港での港湾施設見学が行われました。チャーターしていただいたバスに乗り込んで、本牧ふ頭に出掛け、日本国際輸送株式会社の保税倉庫等の港湾施設内において、貨物のコンテナへの積込や荷下ろしの荷役やコンテナ輸送に関する様々なレクチャーを受けました。



(日本国際輸送株式会社の国際営業部の方から、本牧ふ頭と周辺のご説明)



(ロジスティックスに関する修論を執筆する学生から、たくさんの質問が飛びました)

倉庫の中では、様々な貨物の取り扱いに関するレクチャーがありました。物流業界では、お客様に無事に荷物が届くことが最も重要であるため、貨物の破損に関してそれがどこで起こったのかを特定し、それを証明するために様々な機器を使っていることを学んだ学生たち。日本では、運輸サービスにおける保証についても厳格に取り組まれていることを、現場にて実感したようです。学生たちも今まで座学で学んだことと合わせて、現場の方々から直接お話を聞いたことで、物流事業に関する理解をさらに深めることができました。



(株式会社宇徳の港湾施設でのレクチャー)

最後に、株式会社宇徳のコンテナヤードを訪問させていただき、現場にいらっしゃる担当社員の方々からコンテナヤードの運営について様々なレクチャーを英語で受けました。こちらでも学生から多くの質問が飛びました。

今回は、実際の現場からの経験を踏まえた貴重なお話を伺えたことで、日越大学のMBA 学生たちにとって実りのある企業インターンシップとなりました。横浜国立大学で学ぶ4か月という短い期間の中で、地元の横浜とのつながりをさらに深めている学生たちの姿に、日本とベトナムの懸け橋となる将来の姿に思いを馳せ、無事インターンシップは終了となりました。

このような素晴らしい学習機会をいただきましたことに、日本国際輸送株式会社、またご紹介をしてくださった IDEC に深く御礼申し上げます。

日越大学 MBA 学生からの感想

「NACCS システムでの税関申告や通関手続きなど、日本国際輸送株式会社から提供いただいた情報に非常に興味があります。これはベトナムでも同じです。また、コンテナヤードでの取り扱い、積み込み、積み降ろし、梱包の方法を観察する機会がありました。特

に、コンテナヤードの各部門と各種機械の機能を理解しました。私は施設とスマートな配置にとっても驚きました。」

「日本国際輸送株式会社の紹介とコンテナヤードの見学ツアーのおかげで、物流業界に関する興味深い情報を得ることができました。日本の施設は非常に近代的で、ベトナムの港に比べて非常にスマートできれいに設計されていることがわかりました。仕向け先港で損傷がある場合の責任の所在を明らかにする先進技術の機器の使用の説明を受け、機器の価格は非常に高いので顧客の要件に応じて対応することになりますが、新たな知識として素晴らしい点だと思いました。」

「日本国際輸送株式会社でのインターンシップ期間を通じて、横浜港のロジスティック・オペレーションを訪問し、観察する機会を与えていただいたことに、同社と IDEC の皆さんに多大な感謝を捧げたいと思います。さらに、皆様の支援により、私も研究に有益なロジスティック分野についての知識を広げることができ、また回答された質問を通してこの分野に対する私の好奇心を明確にすることもできました。もう一度、日本国際輸送株式会社と IDEC のスタッフの皆さんに、この有意義で思い出に残る訪問を企画してくれたことに感謝します。そして、将来に互る皆さんのご成功とご幸福を願っています。」